

1 関係団体ヒアリング(継続実施中)の意見概要

- 新たなミュージアムを検討するにあたっては、行政の視点からの検討だけでなく、**「利用者の視点」からも幅広く意見を聴取するため**、教育機関（市立高校美術部、小中学校教育研究会等）や福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設等）、地域活動団体などのほか、**令和2年度に実施した市民アンケートで、博物館、美術館や市民ミュージアムに対する関心度・認知度が低かった10歳～20歳代の「利用していなかった層」**に対して、各団体の特性に応じたヒアリングを昨年度末から実施している。
- 現時点（令和4年9月2日時点）では、新たなミュージアムについて次のとおり意見をいただいている。当ヒアリングは今後も継続的に実施し、基本構想作成の中で参考としていく。

団体名	ヒアリング内容	主な意見
市立高校美術部	・若い世代が関心を持ち、日常的に活用するミュージアム	<ul style="list-style-type: none"> ミュージアムは「鑑賞するところ」というイメージが強く、敷居が高くて足を運びにくい印象がある。 「SNS映え」する写真が撮影できる場所や、友達と話をしながら鑑賞できる場所、屋上や半屋外などの開放的な空間やカフェスペースがあれば足を運びやすくなると思う。 スマートフォンでも作品を鑑賞することが可能になってきているので、みんなでわいわい絵を描くなど、体験・体感できるプログラムが行われていれば、利用してみたいと思う。 アーティストが制作している様子の見学や、アーティストと交流する機会があれば、自分自身とアーティストの双方にとってよい刺激になると思う。 ミュージアムに「来てもらう」ための取組だけでなく、出張事業を積極的に行い、「まちなかアート」を充実させて、文化芸術を身近に感じることができる取組を行ってほしい。 遊びの延長など、なにかの「ついで」として、様々な理由で訪れることができる場所に開設してほしい。
市内大学 ※9月下旬に授業内でヒアリングを継続実施		<ul style="list-style-type: none"> エンタメの場というよりも、学術的な場所で、知識がないと楽しめない場所、敷居が高くて足を運びにくい印象がある。 社会科見学では利用するかもしれないが、プライベートでは足を運ぶきっかけが難しく、日常的に何度も利用する場所ではない印象がある。 「SNS映え」する写真が撮影できる場所や、チームラボのような体感型の展示があれば足を運びやすいと思う。
市内若者団体		<ul style="list-style-type: none"> 敷居が高くて足を運びにくい印象がある。 シンボリックなオブジェや印象的な外観・内観など、入ってみようと思うきっかけがたくさん散りばめられてあると敷居が下がると思う。 友人と足を運べるような仕掛けや、「SNS映え」する写真が撮影できる場所があると、若い世代の自分たちでも足を運びやすいと思う。
小中学校教育研究会	<ul style="list-style-type: none"> 期待する事業展開 ミュージアムと学校の連携 	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術のすそ野を拡大し、市民の多様なつながりを創出する施設になってほしい。 なにかの「ついで」に立ち寄れる場所に開設することで、文化芸術と市民の楽しみを掛け算することができ、市民が集う中心的な施設になり得るのではないかなと思う。 学校の授業で活用するために、二ヶ領用水に関する学習の場として、見学内容の事前調整や、体験型の展示の整備、資料の貸出を行ってほしい。 原始・古代から近代・現代に至るまでの日本の歴史から川崎をピックアップした形で、ビジュアル的に体感できるような施設があるとよい。
地域活動団体	<ul style="list-style-type: none"> ミュージアムと地域活動団体や市民、地域との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 学術的で敷居の高い施設ではなく、カフェスペースなど憩いの場も設けて、市民が気軽に集うことができる、市民に身近な施設であってほしい。 市民に「利用してもらう」のではなく、市民に「参加してもらう」ための取組を実践してほしい。 デジタル技術を活用して市内の文化芸術資料を一括で管理し、どこからでもアクセスできるようなシステムを整備するなど、資料の管理においても中心的な役割を担ってほしい。
障害者支援施設	<ul style="list-style-type: none"> ミュージアムに求める機能や福祉との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用者を連れて施設を利用することは、保護者に聞くと、昔よりは理解は進んだが、依然として「周囲に迷惑をかけてしまうのではないかな」という心配は大きい。 出張事業として、実際に施設に来て「ホンモノ」に触れられる機会が提供されることも嬉しいが、自分たちでプログラムを企画する際に気軽に相談できる窓口があると嬉しい。
高齢者支援施設	<ul style="list-style-type: none"> ミュージアムに求める機能や福祉との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術のジャンルは問わず、「非日常」の刺激を受けることで、施設利用者に普段と異なる感情が表出することがある。 出張事業を実施する場合には、パッケージ型のプログラムを実施するのではなく、事前打ち合わせによって、施設利用者の特性に合わせた内容にできるとよい。

関係団体ヒアリング（継続実施中）における新たなミュージアムに関する意見のキーワード

- ① 敷居が低い場所
- ② 鑑賞だけでなく多様な楽しみ方
- ③ 体感・体験
- ④ 交流創出（市民参画）
- ⑤ （文化芸術が）身近に感じられる取組
- ⑥ 「ついで」の利用
- ⑦ 資料へのアクセス性
- ⑧ 「非日常」の刺激
- ⑨ 障害者や高齢者などのニーズに応じた柔軟な事業展開

新たなミュージアムのイメージ（案）等について

2 新たなミュージアムの「使命」、「めざす姿」(案)について

- ・「新たな博物館、美術館に関する基本的な考え方」（令和3（2021）年11月策定）のほか、第1回懇談会の意見聴取内容及びこれまでの関係団体ヒアリング等から得られた検討ポイントを踏まえ、新たな博物館、美術館それぞれで整理していた「使命」、「めざす姿」（草案）について見直し、**融合した「ミュージアム」としての「使命」、「めざす姿」として再整理した。**
- ・再整理にあたっては、**川崎のミュージアムとして「川崎らしさ」を持つ施設を目指すため**、「市民創発」（※）による活発な市民自治の取組をはじめ、7つの区が持つ多様なポテンシャルや地域資源を有していること、多様な価値観を認め合い、多文化共生社会を育んできた土壌があること、若者が多く、新鮮で活気がある都市であることなど、**川崎が持つ特徴の中でもミュージアムの活動に活かせると考えられるものを踏まえる**とともに、市民ミュージアムがこれまで展開してきた活動等も念頭に置き、**新たなミュージアムが市民に何をもたらすことができるのかを意識しながら検討を行った。**

※ 市民創発 … 様々な個人や団体が出会い、それぞれの思いを共有・共感することで生まれる相互作用により、これまでにない活動や予期せぬ価値を創出すること（「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」（平成31（2019）年）3月策定）で定義

新たなミュージアムの「使命」（案）

新たなミュージアムの「使命」

市民とともに川崎の**100**年を辿り
これからの**100**年を彩る



- ・都市化して大きく発展した川崎の歴史を、**市制100年を中心にこれまでを振り返り、これからの100年をより豊かにしていくための創造の拠点**として新たなミュージアムを位置づける。
- ・川崎の文化芸術の魅力が詰め込まれた**モノとヒト、ヒトとヒトをつなぐ**ことで、川崎のこれからを切り拓く礎である市民の考える力や協働する力を育て、よりよい地域づくりに貢献する。

新たなミュージアムの「めざす姿」（案）

博物館、美術館が真に融合したミュージアムとして活動する
～市民の日常生活の中にありながら、市民が「非日常」を体験・体感できる先進的なミュージアムをめざす～

1 過去を紐解き、現在を記録し、未来へつなげるミュージアム

- ・過去だけでなく、日々変化する現在の川崎の姿を捉え、紐解き、未来を考えるための素材として活用するとともに、川崎ゆかりの作家やその作品、まつわる資料などを文化芸術として育て、未来につなげていくミュージアム

2 モノとヒト、ヒトとヒトをつなぎ、交流・共創するミュージアム

- ・モノを媒介にした体験や対話を通じ、世代や文化を超えて市民や関連施設、団体など多様な主体をつなぎ、交流するとともに、文化芸術の価値を活用した新しい文化や事業を共創するミュージアム

3 日常と文化芸術をつなぎ、市民が身近に感じられる開かれたミュージアム

- ・市民の多様なレベルの創作・鑑賞等のニーズに応え、探求心や表現活動を支えるサービスを提供するとともに、誰もが文化芸術活動に携わり、親しみ、楽しめる環境づくりを行い、市民が身近に感じられる開かれたミュージアム

4 既知と未知をつなぎ、ともに成長するミュージアム

- ・ミュージアムをはじめ、市民や企業など多様な主体が持つ知見を活用し、相互対話により未来を共創する活動につなげ、地域への愛着や文化的感性、多様性の理解を育むとともに、地域的、社会的課題に向き合い、ともに成長するミュージアム

5 地域社会の担い手となる人材を育成するミュージアム

- ・博物、美術が融合した企画や地域に開かれた活動を通じて、モノとヒトをつなぐ専門人材や、ミュージアムと協働し、ともに成長する人材など、地域社会の担い手となる人材を育み、好循環を生み出すミュージアム

新たなミュージアムのイメージ（案）等について

3 新たなミュージアムのイメージ(案)について

- 新たなミュージアムの「使命」、「めざす姿」の実現に向け、**驚きや発見があり、市民に期待感や知的好奇心を抱いてもらえるような施設を目指し**、次の「新たなミュージアムのイメージ（案）」を基に、取り組むべき事業とその展開の方向性を検討していく。
- 新たなミュージアムについては、融合したミュージアムならではの活動のほか、これまで市民ミュージアムが収集してきた資料・作品の活用や令和元年東日本台風による被災の事実の継承・発信など、市民ミュージアムの特徴・背景を踏まえた活動を検討するとともに、本市の関連施策との連動も念頭に置き、検討を進めていく。

(1) 新たなミュージアムのイメージ（案）

- 拠点となる「ミュージアム」施設を整備する**ほか、誰もが文化芸術に携わり、親しみ、楽しめる環境づくりに貢献するため、**市内で「まちなかミュージアム」の活動を展開する。**

ミュージアム（拠点）

【イメージ】

一か所に集約しなければ実現できない機能（※1）やまとまった空間でしか実現できない機能（※2）を集めた拠点施設として整備する。

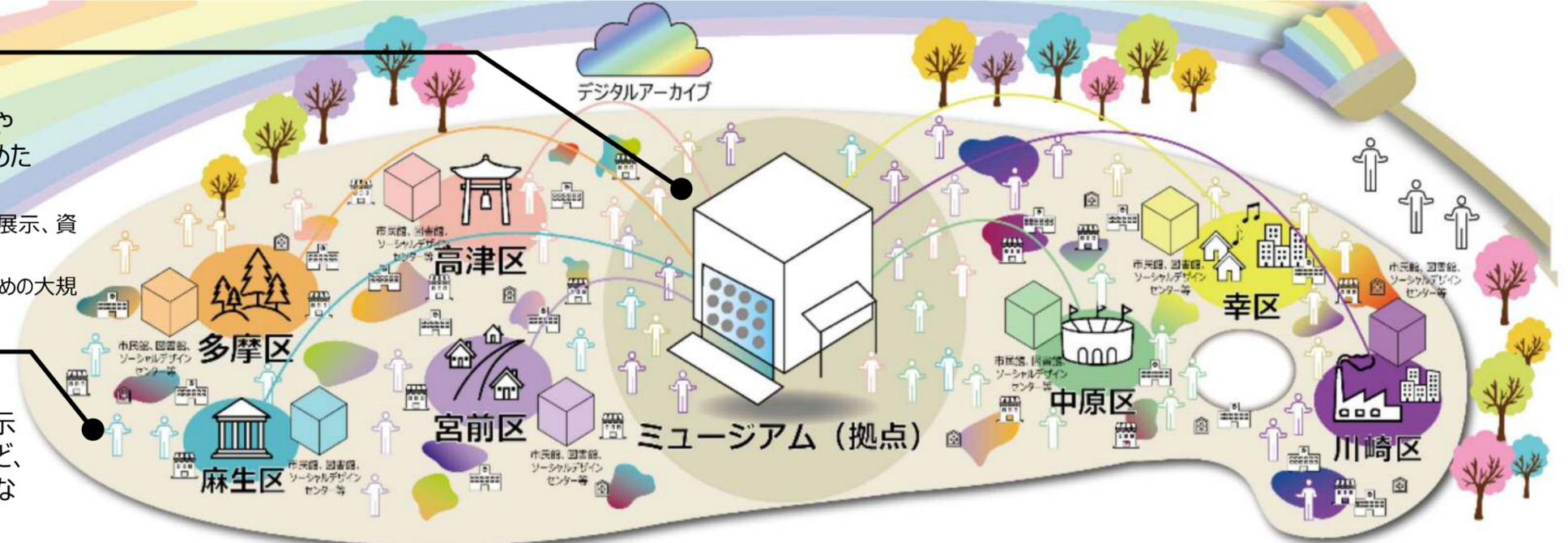
※1…（想定機能例）市全体のあゆみを通史的に紹介する展示、資料修復施設、ライブラリーなど

※2…（想定機能例）大型収蔵庫、創作活動やイベントのための大規模な屋内空間など

まちなかミュージアム

【イメージ】

各区の学校や病院、店舗などにおいて、作品の展示や収蔵資料の貸出、アウトリーチプログラムを行うなど、7区それぞれの特性やその地域性を踏まえた「まちなかミュージアム」活動を展開する。



(2) 新たなミュージアムで取り組むべきと考える事業とその展開の方向性（案）

1 収集・保管、調査研究、展示

収蔵資料を、過去、現在の川崎の姿を捉え、紐解き、未来を考えるための素材として活用する

《事業イメージ（案）》

- 既存のコレクションや市ゆかりの作家の作品など、川崎の特色がある資料・作品の効率的な活用
- デジタルミュージアムの推進
- 博物館、美術が融合した展示
- 体験型の展示
- 被災の事実の継承・発信

など

2 交流創出

博物館、美術の枠を超えた交流を創出し、多様性の理解を育み、新たな価値や発想を生み出す

《事業イメージ（案）》

- 市民と作家や学芸員との交流を創出するための取組
- 学校とミュージアムとの交流を創出するための取組
- 企業とミュージアムとの交流を創出するための取組
- 多様な分野の交流を創出するための取組

など

3 支援・促進

市域の文化芸術を、誰もが身近なものとして楽しみ、親しみながら携わることができる活動を展開する

《事業イメージ（案）》

- 文化芸術を身近に感じてもらうための取組
- 障害のあるなしに関わらず、誰もが文化芸術に親しむための取組
- 市民の文化芸術活動支援のための取組

など

4 未来思考・未来創出

市民の自ら思考する力を養い、ともにまちと主体的に関わり、地域的、社会的課題に取り組む

《事業イメージ（案）》

- 先端技術を活用した、楽しみながら文化芸術に携わる取組
- 文化芸術を活用し、地域的、社会的課題の解決に貢献する取組
- 博物館、美術の分野を横断し、新たな魅力を発信する取組
- 知見を活用し、新たな作品の制作につなげる取組

など

5 人材育成

市民の好奇心や探求心を深め、主体的に学ぶ気持ち呼び起こし、地域社会の担い手となる人材を育成する

《事業イメージ（案）》

- モノとヒトをつなぐミュージアム運営の専門人材を育成する取組
- ミュージアム利用者が地域社会の担い手となるような好循環を実現するための取組
- 市民ファシリテーターの育成やボランティアの参加を促す取組

など